

乳白米対策

乳白米は「籾数が多すぎる」「低温・高温による登熟不足」「光合成を維持するための窒素の極端な不足」「出穂後の水不足、早期落水」等の要因により、玄米への転流不足が起こり、玄米に十分なデンプンが蓄積されず、空気の間隙ができてしまい、玄米が白く濁って見える状態。

乳 白 米 対 策	水 管 理	穂が見えてからは、夜間の水温を下げるために、ほ場に水を午前中からではなく、夕方から入れるようにする。こうすることで夜間の気温が高くなっても水温はさほど上がらず、根を健全に保つことができるため、乳白米の発生が軽減できる。
	適期刈り取り の 励 行	早刈りに注意する。全籾数の85%程度が黄色くなった頃に刈り取りを行う。
	土 づ く り	しっかりした根を収穫まで維持し、日照りによる登熟不足を防ぐためには、前年の秋の段階からケイ酸の補給をして、できるだけ深く耕しておくことが重要。さらに、秋冬の間しっかりと乾かすことで、土の構造が団粒化し、適度なすき間を持った土壌になり、酸素を含んだ新しい水が根の先まで入り込み、健全な稲株づくりにつながる。

栽培暦にそって十分な管理を心がけ、乳白米の減少に努めましょう。